

一年学年だより

No. 5

8月号

令和8年8月1日

学年付

パスカルの賭け

1 学期を振り返ってみて、みなさん自身の学校生活はどうでしたか？高校の勉強は、中学に比べると進度が早く内容も難しい…と感じている人も多いのでは？部活動は楽しく充実したものになっていきますか？今年の梅雨は例年より雨が多く、自転車通学の厳しい洗礼を受けた人も多いでしょう。さあ、待ちに待った楽しい夏休み！夏休みの計画は立てましたか？高校生活でいちばん自由な夏休みは、もちろん今年の夏休み。何となくダラダラと過ごして終わりました…なんてもったいない！私がいちばん楽しかった夏休みは、30 年前、バックパッカー（リュックを背負って個人旅行する人）で、シルクロードを旅したときかな。昔は土曜が開校日だったので、夏休みにその分をまとめ取りすることができ、1 か月まるまる旅行することができました。その当時は、退職後は世界中を旅して回るぞ！そう思い描いていたのに、退職した今も生活のために働く日々、トホホ…です。

さて、高校になって数学がわからなくなった、嫌いになった、という人はけっこういると思います。私が中学1年の時、数学の先生が数学者ガロワの話をしてくれて、「決闘で20歳の若さで死んだ天才数学者」というその肩書がすごく衝撃的で、さっそく書店で『数学をつくった人々』という数学者の伝記本を買いました。ガロワは、数学者であると同時に、革命運動家でもありました。歴史総合で学習した1830年フランス七月革命の時代です。数学と革命に短い青春を駆け抜けたガロワの生涯に超刺激を受けた私は、「数学者&革命家」を将来の目標に設定したのです。しかし、高校生になって数学は得意ではあったものの、全国模試では上には上がいるという現実と直面し、とても「数学者」にはなれそうもないな…と見切りをつけました。では、残った「革命家」の道は… 当時（1979～80年）はまだ東西冷戦の真っ只中、ソ連によるアフガニスタン侵攻、それに反対した西側諸国のモスクワ・オリンピックの不参加、など東西冷戦は緊張を高めていましたが、高校生になり歴史に目覚めた私は、共産主義革命の実態を知り、チェゲバラの悲惨な最期に衝撃を受け、「革命家」の時代はもう終わったのだ…と悟りました。

それから時は流れ、高校の社会科教員になった私が「倫理」の授業で調べものをしていたときに、「デカルトとパスカルによる神の存在証明」という論争に出会います。簡単に言うと、「神の存在」を人間は理性で証明できる、とデカルトは主張するのですが、パスカルは「神の存在」は人間の理性を超越しているのだから、人間ごときにそんなことはできない、と考えたのです。二人とも偉大な数学者ですが、彼らの時代は、「数学者」なんていう肩書はありません。数学も物理学も、すべては「神学・哲学」の一分野だったからです。みなさんはどちらの主張が正しいと思いますか？私は、断然パスカル支持です。1年生の後半に数学で学習する「確率」、この基礎を築いたのがパスカルですが、「パスカルの賭け」とよばれるものがあります。「もし神がいらないとするならば、人間は救いを求めることができない。しかし、神が存在するのなら、人間は救われる。神の存在を信じる？信じない？どちらなんだい！当然、誰だって救われたいから、信じた方が絶対いいよね！」というものです。これを「死後の世界（霊的なもの）は存在する」に置き換えてみると、よりわかりやすいでしょう。「死んだらすべて終わり」ではなく、「死後の世界が存在する」と考えた方が、大切な人を亡くした人にとって、どれだけ救われることか。小学2年生のときに祖父が亡くなり火葬に立ち会って以来、「もし棺の中で生き返ったら！？」と考えると夜も眠れなくなり、「死後の世界ってどんなだろう？」そうずっと悩んできた私にとって、「パスカルの賭け」はすばらしい処方箋となりました。

しかし、現代の最先端科学である「量子論」は、「死後の世界」を解明してしまうかもしれません。YouTubeの動画でいま勉強中です。あっ、ちなみに私は「古代宇宙飛行士説」と出会ってからは、確信しています。

「神＝宇宙人」とであると。

さあ、今年の夏休み、私が授業でいつも言っている「君たちのヤバイ未来」について、少し考えてみてはどうでしょうか。



